

〈特集「情報標示の諸要素」〉

## ロシア語における情報標示の諸要素 Some markers of information structure in Russian

宮内 拓也<sup>1,2</sup>, 後藤 雄介<sup>1</sup>, テレギナ マリア<sup>3,4</sup>  
Takuya Miyauchi, Yusuke Goto, Maria Telegina

1 東京外国語大学大学院総合国際学研究所  
Doctoral Course, Graduate School of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies

2 国立国語研究所コーパス開発センター非常勤研究員  
Adjunct Researcher, Center for Corpus Development, National Institute for Japanese Language and Linguistics

3 オックスフォード大学東洋学部日本語研究センター  
Doctoral Course, Research Centre for Japanese Language and Linguistics, Faculty of Oriental Studies, University of Oxford

4 国立国語研究所特別共同利用研究員  
Special Joint Research Fellow, National Institute for Japanese Language and Linguistics

**要旨:** 本稿の目的は、特集「情報標示の諸要素」(『語学研究所論集』第22号, 2017, 東京外国語大学)に寄与するために、ロシア語のデータを提供することである。簡単な解説を加えながら、アンケートに沿った形でロシア語の例文を提示する。

**Abstract:** The aim of this report is to offer Russian data to contribute to the special cross-linguistic study on 'markers of informational structure' (*Journal of the Institute of Language Research* 22, 2017, Tokyo University of Foreign Studies). We present Russian examples following the questionnaire, adding brief explanations for them.

**キーワード:** 主語卓越型言語, とりたて表現, 不定表現, 情報のなわ張り

**Keywords:** subject-prominent language, emphasizing expression, indefinite expression, informational territory

### 1. はじめに

本稿ではロシア語における情報標示の諸要素について、特集のアンケートを基にまとめることを目的とする。

以下、2節にてアンケートに沿った形でロシア語の例文を提示し、簡単な解説を加える。グロスの下にある日本語文は、特集のアンケート例文をそのまま記載したものであり、ロシア語例文の日本語訳ではないことに注意されたい。なお、本稿における例文番号はすべてアンケートの番号と同一である。アンケートにて回答を求められた例文以外にも、必要に応じて補足的な例文を加えてある。その際は同一の例文番号のもと、より小さな項目(a, b, c...)によって示しており、補足した例文である旨は注において示してある。例文についてはキリル文字によるものとラテン文字によるものを併記することとする<sup>1</sup>。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

<sup>1</sup> ラテン文字による翻字はロシア文字による表記の下、グロスの上に記すこととする。翻字は以下の通りとする: A=A, Б=B, В=V, Г=G, Д=D, E=E, Ё=E, Ж=Ž, З=Z, И=I, Ы=J, К=K, Л=L, М=M, Н=N, О=O, П=P, Р=R, С=S, Т=T, У=U, Ф=F, Х=X, Ц=C, Ч=Č, Ш=Š, Щ=Šč, Ъ=”, Ы=Y, Ь=’, Э=È, Ю=Ju, Я=Ja.

## 2. アンケートへの回答

### 2.1. 主題卓越型類型論の軸項について

- (1) На этой земле хорошо родятся овощи, наверно, поэтому \*(eë)  
Na étoj zemle хороšo rodjatsja ovošči, naverno, poétomu \*(ee)  
on this-LOC soil-LOC well are\_born-IPFV.3.PL vegetables-NOM probably therefore it-ACC  
можно продать по высокой цене.  
možno prodat' po vysokoj cene.  
can-IPFV sell-PFV.INF at high-DAT price-DAT<sup>2</sup>

「この土地は野菜がよく育つ。だから高い値段で売れるだろう。」

統語的に動詞の必須項ではない名詞の統語的軸項(pivot)の機能については、(1)のように、主題である前置詞句 *на этой земле* 「この土地で」を受ける場合、代名詞 *eë* 「それ」を用いる。代名詞を省略することは許されず、省略した場合は非文法的となる。そのため、必須項ではない名詞は統語的軸項の機能を果たさない。

- (2) a. У меня болит голова, поэтому сегодня я отдохну.  
U menja bolit golova, poétomu segodnja ja otдохну.  
at I-GEN hurts-IPFV.3.SG head-NOM therefore today I-NOM have\_a\_rest-PFV.1.SG

「私は頭が痛い。だから今日は休む。」

- b. \* Этот студент болит голова.<sup>3</sup>  
\* Ètot student bolit golova.  
this-NOM student-NOM hurts-IPFV.3.SG head-NOM

「この学生は頭が痛い。」

統語的軸項としての機能については、(2a)のように主題として前置詞句 *у меня* 「私のところで」が用いられ、*голова* 「頭」が主格となる。2つ目の節では、主語 *я* 「私」が明示されており、そのため、主題は統語的軸項として機能していない。また、(2b)のように *этот студент* 「この学生」と *голова* の両方を主格にし、二重主語構文にすると非文になる。よって、ロシア語は典型的な主題卓越型言語ではないといえる<sup>4</sup>。

<sup>2</sup> グロス議論に関わるもののみ付す。文法情報の略記は以下の通りとする：SG = 単数，PL = 複数，M = 男性，F = 女性，N = 中性，NOM = 主格，ACC = 対格，GEN = 生格(属格)，DAT = 与格，INS = 造格(具格)，LOC = 前置格(所格)，1 = 1人称，2 = 2人称，3 = 3人称，INF = 不定形，PFV = 完了体(完了相)，IPFV = 不完了体(不完了相)，IMP = 命令法，COMP = 補文標識，PTCL = 助詞(小詞)。

<sup>3</sup> (2b)の例は、アンケートにない追加の例文である。

<sup>4</sup> ただし、ロシア語には、主題卓越型言語に典型的にみられる特徴もある。詳細は匹田 (2004)を参照されたい。

## 2.2. とりたて表現について

- (3) Только этот мужчина пришёл<sup>5</sup> вовремя.  
Tol'ko étot mužčina prišel vovremja.  
only this-NOM man-NOM.SG.M arrived-PFV.M on\_time  
「あの人だけ, 時間通りに(歩いて)来た。」

(3)に見るように, 限定については, 主語名詞句 *этот мужчина* 「あの(男の)人」に, 限定を表す *только* 「だけ」を組み合わせることで表される<sup>6</sup>.

- (4) a. Это можно купить только здесь.  
Èto možno kupit' tol'ko zdes'.  
this-ACC can-IPFV buy-PFV.INF only here  
「これはここでしか買えない。」

- b. Я хочу выучить русский язык, только не знаю,  
Ja хо́чу выучи́ть русски́й язы́к, то́лько не знаю́,  
I-NOM want-IPFV.1.SG learn-PFV.INF Russian-ACC language-ACC only not know-IPFV.1.SG  
как (это сделать).<sup>7</sup>  
kak (éto sdelat').  
how this-ACC do-PFV.INF

「私はロシア語を学習する気はあるが, どうやって学習したらいいのかが分からないだけだ。」

- c. Он владеет не только русским языком, но ещё и французским  
On vladeet ne tol'ko russkim jazykom, no ešče i francuzskim  
he-NOM master-IPFV.3.SG not only Russian-INS language-INS but also and French-INS  
и японским языками.  
i japonskim jazykami.  
and Japanese-INS languages-INS

「彼はロシア語だけではなく, フランス語と日本語にも堪能である。」

限定と否定の共起に関して, アンケート例文を基にした(4a)では, 限定のみで否定は用いられない。つまり, (4a)のロシア語文の直訳は「これはここでだけ買える」となる。しかし, (4b, c)の例で示すように, ロシア語において, 限定と否定が共起する際も, 限定を表す *только* 「だけ」を用いることができる。なお, (4b)は限定が否定より広い作用域を取り, (4c)は否定が限定より広い作用域を取る例である。

<sup>5</sup> ロシア語において移動を表す表現は, どのように移動するかによって異なる動詞が用いられる。例えば, 「到着する」という表現は, *прийти* 「(歩いて)到着する」, *приехать* 「(乗り物で)到着する」, *прилететь* 「(飛行機で)到着する」, *приплыть* 「(泳いで)到着する」のように, どのように移動するかによって, 使用される動詞が異なる。

<sup>6</sup> なお, ここでは「あの人」は男性であるとし, 主語に *только этот мужчина* 「あの(男の)人だけ」が用いられているが, これ以外にも *только он* 「彼だけ」も同様の意味で用いることが可能である。また, 「あの人」が女性を指している場合は, *только эта женщина / девушка* 「あの(女の)人だけ」も可能である。

<sup>7</sup> (4b)及び(4c)の例はアンケートにない, 追加の例文である。なお, (4b)における 2 文目従属節の *это сделать* 「それをやる」は省略可能である。

- (5) В этом доме были { сплошь дети / только дети / много  
 V étom dome byli sploš' deti / tol'ko deti / mnogo  
 in this-LOC house-LOC were entirely children-NOM only children-NOM many  
 детей }.  
 detej }.  
 children-GEN

「その家にいたのは子供ばかりだった。」

限定・多数を表す場合, (5)で示すように, いくつかの表現が可能である. それぞれ, 構文は同じであるが, 「子供」と結合する語が異なる. 限定・多数を共に一語で表現するために副詞 *сплошь* 「全面的に」を用いると日本語文に最もよく対応したものとなる. ただし, *сплошь* をこのように用いるのはかなり口語的である. 限定を表す *только* 「だけ」を使用した場合, 限定の意味のみを示すことになるため, 「大人はいなかった」ことが含意される. 多数を意味する *много* 「たくさん」を使用した場合, 多数の意味のみが表現されるため, 大人の人数についての含意はない.

- (6) a. Уж в следующий раз, я { постораюсь справиться / точно не  
 Už v sledujuščij raz ja postorajus' spravit'sja / točno ne  
 PTCL in next-ACC time-ACC I-NOM try-PFV.1.SG cope-PFV.INF definitely not  
 потерплю неудачи }.  
 poterplju neudači }.  
 loose-PFV.1.SG failure-GEN
- b. Я { постораюсь справиться / точно не потерплю неудачи } в  
 Ja { postorajus' spravit'sja / točno ne poterplju neudači } v  
 I-NOM try-PFV.1.SG cope-PFV.INF definitely not loose-PFV.1.SG failure-GEN in  
 следующий раз.  
 sledujuščij raz.  
 next-ACC time-ACC

「次回こそ, 失敗しないようにしよう。」

限定・強調の意味については, (6a)のように, 強調の助詞 *уж* 「もう」を用いることで表出させることが可能である. 一方, (6b)のように助詞を用いない場合は, 前置詞句 *в следующий раз* 「次回に」を後置することで「こそ」のニュアンスを出すことが可能である. ただし, 当該の前置詞句を後置する方が, 助詞 *уж* を用いるよりも「こそ」のニュアンスがより出る.

- (7) a. Ты устал? Чаю что ли попьём?  
 Ty ustal? Čaju što li pop'em?  
 you-NOM became\_tired-PFV.2.SG tea-GEN PTCL drink-PFV.1.PL
- b. Наверно устал? Давай хотя бы чаю попьём.  
 Naverno ustal? Davaj hotja by čaju pop'em.  
 probably became-tired-PFV.2.SG let's PTCL tea-GEN drink-PFV.1.PL

「疲れたね, お茶でも飲もう。」

反限定・例示については, (7a)の *что ли* 「~か何か」, (7b)の *хотя бы* 「例えば~でも」, どちらも可能である. ただし, *что ли* は英語で言う *or something* にあたる表現になるため, 「例えば, お茶を飲もうか」

という意味になる。一方、後者の場合、「他に選択肢がないので、お茶でも飲もう」<sup>8</sup>とうニュアンスが含意される。なお、「飲もう」にあたる *поя́ем* は動詞 *пить* 「飲む」の一人称単数形で勧誘を表している。

- (8) Была бы только вода, { можно прожить несколько дней / пару  
 Byla by tol'ko voda, { možno prožit' neskol'ko dnej / paru  
 was.F PTCL only water-NOM.F can-IPFV live-PFV.INF some days-GEN pair-ACC  
 дней протяну }.  
 dnej protjanu }.  
 days-GEN last\_out-PFV.1.SG  
 「水さえあれば、数日間は大丈夫だ。」

極端・意外の表現については、仮定法<sup>9</sup>と、(3)の限定と同様に、*только* 「だけ」を用いて表される。なお、動詞 *протяну* 「生きながらえる」を使う方が *можно прожить* 「生きることができる」と比べて少し口語的である。

- (9) a. Даже маленькие дети были вынуждены помогать с этой  
 Daže malen'kie deti byli vynuždeny pomogat' s étoj  
 even-PTCL little-NOM children-NOM were be\_compelled-PL help-IPFV.INF with this-INS  
 работой.  
 rabotoj.  
 work-INS  
 b. Даже маленьких детей заставили помогать работать.  
 Daže malen'kix detej zastavili pomogat' rabotat'.  
 even-PTCL little-ACC children-ACC made-PL help-IPFV.INF work-IPFV.INF  
 「小さい子供まで、その仕事の手伝いをさせられた。」

(9)のような極端・意外の例については、(9a, b)ともに、助詞 *даже* が「まで」にあたるニュアンスを出している。また、(9b)では動詞 *заставили* 「強いた」を用いているが、この動詞を使用する場合、かなり強い強制のニュアンスが出る。さらに、動詞 *заставили* の後ではなく、文頭に補語の名詞句 *маленьких детей* 「小さな子供を」を置くことで、単に助詞 *даже* を用いるだけの場合よりも「まで」のニュアンスをさらに強くすることが可能である。なお、「その仕事の手伝いをする」という表現については、(9a)のように動詞 *помогать* 「助ける」に前置詞句 *с этой работой* 「その仕事で」を続けるよりも、(9b)のように不定形の *работать* 「働く」を続ける方が総じて自然になる。

- (10) a. Мне до денег дела нет.  
 Mne do deneg dela net.  
 I-DAT to money-GEN business-GEN no  
 b. Не хочу я денег.  
 Ne хо́чу я денег.  
 not want-1.SG I-NOM money-GEN  
 「私はお金なんか欲しくない。」

<sup>8</sup> 例えば、お茶以外の飲み物がない、または他にやることがない等が状況として考えられる。

<sup>9</sup> ロシア語において、仮定法は動詞の過去時制と仮定法を明示する標識によって表される(АН СССР 1960: 501)。本例では、過去時制の動詞は *была*、仮定法の標識は *бы* となっている。

c. Да куда ему!<sup>10</sup>  
 Da kuda emu!  
 PTCL where he-DAT

「彼になんかできるものか。」

反極端・低評価を示す場合、(10a)の例が「お金なんて興味ない、どうでもいい」という日本語のニュアンスが一番よく出る。(10b)も同様に可能であるが、「お金なんか」の反極端・低評価のニュアンスは、(10a)ほどではない。なお、(10b)の語順に関して、*Я не хочу денег.*(主語 否定辞 動詞 補語)とするよりも、*Не хочу я денег.*(否定辞 動詞 主語 補語)とする方がより反極端・低評価のニュアンスが出る。これは否定辞+動詞を前置することで「いない」が強調されることにより、それに応じて *денег*「お金」への低評価を表現することができると考えられる。(10c)の *куда* を用いた例も反極端・低評価を表すことが可能である。ただし、これを用いるのが可能なのは、かなり限られた場合のみである。

(11) { По крайней мере / Хотя бы } свою комнату сам приберу.  
 { По крайней мере / Хотя бы } svoju komnatu sam priberu.  
 at\_least at\_least self's-ACC room-ACC oneself-NOM clean-PFV.IMP.2.SG

「自分の部屋ぐらい、自分できれいにしなさい。」

反極端・最低限については、*по крайней мере*「少なくとも」、*хотя бы*「せめて～でも」のどちらも最低限を表す表現として使用可能である。*по крайней мере* を使用すると少し硬い感じがし、*хотя бы* を使用する方がこの文脈ではより自然である。

(12) И мне (дай).  
 I mne (daj).  
 PTCL I-DAT give-PFV.IMP.2.SG

「私にもちょうだい。」

類似・例示の意味について、ロシア語においては強調の助詞 *и*「～も」によって表される。*Дай и мне.*(動詞 助詞 補語)の語順よりも、*И мне дай.*(助詞 補語 動詞)のように、助詞+補語を前置する方が、より類似・例示のニュアンスを強めることが出来る。また、動詞 *дай* は省略可能であり、*и* と補語のみで表現することも可能である。

(13) Папа уже { дома, / пришёл домой, } а мама?  
 Papa uže { doma, / prišel domoj, } a mama?  
 papa-NOM yet at\_home arrived-3.SG home whereas mama-NOM

「お父さんもう帰って来たね。お母さんは？」

反類似・対比(疑問)の意味について、ロシア語には、軽い対立・対照を表す接続詞として *а*「～だが…」がある。(13)において、この接続詞は、*папа*「父親」と *мама*「母親」を対照する働きをしている。なお、「お父さんはもう帰ってきたね」の箇所に関して、コピュラ文<sup>11</sup>の場合と、動詞 *пришёл*「到着した」を

<sup>10</sup> (10c)の例はアンケートにない、追加の例文である。

<sup>11</sup> ロシア語において、コピュラ動詞 *быть* は現在時制の場合、通常、音声上顕在的な要素として現れない。ロシア語におけるコピュラ文に関しては、非常に複雑な様相を呈しており、詳細については、Chvany

使用した文の場合とがある。どちらの文も可能であるが、通常想定される状況では前者が自然で、後者は少し不自然(使える場面が非常に限られている)である。

### 2.3. 不定表現について

まず、ロシア語の不定代名詞、否定代名詞の形成法について簡単に述べる。不定代名詞は疑問詞に *кое-*, *-то*, *-нибудь*, *-либо* といった接辞を添加することにより形成される。また、否定代名詞は疑問詞に接辞 *ни-* を添加することによってできる。これを疑問詞 *кто* 「誰」、*что* 「何」を例として用いてまとめたものが表 1 である。なお、このように形成される代名詞については、曲用するのは疑問詞部分のみである。

表 1 ロシア語の不定代名詞、否定代名詞の形成の例

疑問詞	кое-	-то	-нибудь	ни-
кто 「誰」 кто	кое-кто koe-кто	кто-то kto-to	кто-нибудь kto-nibud'	никто nikto
что 「何」 что	кое-что koe-что	что-то cto-to	что-нибудь cto-nibud'	ничто ničto

図 1 は Haspelmath (1997)によるロシア語の不定表現の含意マップ(implicational map)である。さらに、図 2 は Татевосов (2002)による含意マップである。

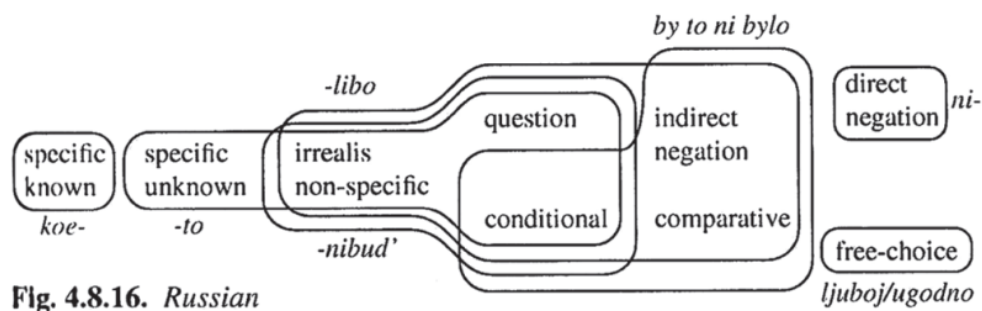


Fig. 4.8.16. Russian

図 1 Haspelmath (1997: 71)によるロシア語の含意マップ

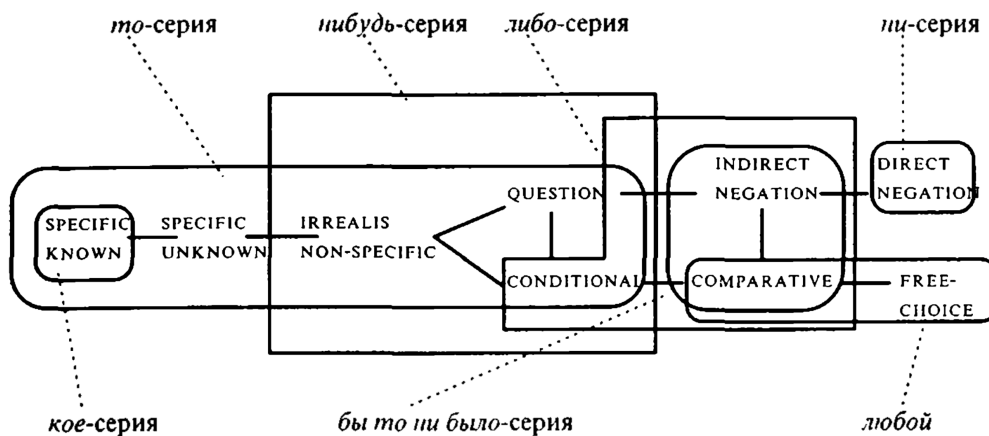


図 2 Татевосов (2002: 141)によるロシア語の含意マップ

(1975)や Pereltsvaig (2007)等を参照されたい。

特集と関係のある点について上記の先行研究における記述の違いをまとめると、Haspelmath (1997)は特定既知(specific known)の文脈で *то* 系列の不定代名詞が現れないとしている一方で、Татевосов (2002)は用いることができるとしている。さらに *либо* 系列は、Haspelmath (1997)は非現実不特定(irrealis non-specific)、疑問(question)の文脈でも用いられるとするが、Татевосов (2002)は用いられないとする。*бы то ни было* 系列については、Haspelmath (1997)が条件節内(conditional)でも現れ得るとしている一方、Татевосов (2002)は現れないとしている<sup>12</sup>。

- (14) { Кое-кто / # Кто-то } звонил.  
 Кое-кто / # Кто-то zvonil.  
 someone-NOM someone-NOM called-IPFV.M  
 「誰か(が)電話してきたよ。」

(14)では不定代名詞 *кое-кто* 「誰か」<sup>13</sup>が用いられている。このように、特定既知の環境では *кое* 系列の不定代名詞が現れる。*кое* 系列の不定代名詞は特定既知の文脈で用いられるものであるため、「お互いに名前を知っているから言わないという状況」が想起され、ここで *кое-кто* は「(例の)あの人」のような意味になる。また、本調査では特定既知の文脈で *кто-то* 「誰か」は用いることはできないという結果であった<sup>14</sup>。なお、*кое-кто*, *кто-то* は男性形の一致を要求する。

- (15) Давай у { кого-то / кого-нибудь / ?? кого-либо / # кого бы то ни было } спросим.  
 Davaj u { kogo-to / kogo-nibud' / ?? kogo-libo / # kogo by to ni bylo } sprosim.  
 let's at someone-GEN someone-GEN someone-GEN someone-GEN ask-PFV.1.PL  
 「誰かに聞いてみよう。」

(15)のように、非現実不特定の環境では、不定代名詞 *кого-то*, *кого-нибудь* 「誰か」が用いられる。この環境で *кого бы то ни было* 「誰か/誰も」を用いることはできない。*кто-либо* 「誰か/誰も」については、不自然になるものの、この環境で用いるのは不可能ではない<sup>15</sup>。

- (16) { Кто-то / Кто-нибудь / ?? Кто-либо / # Кто бы то ни было } приходил, пока  
 { Kto-to / Kto-nibud' / ?? Kto-libo / # Kto by to ni bylo } prihodil, roka  
 someone-NOM someone-NOM someone-NOM someone-NOM came-IPFV.M while  
 меня не было?  
 menja ne bylo?  
 I-GEN not was-N  
 「私のいない間に誰か来た？」

疑問の環境においては、(16)で示すように不定代名詞 *кто-то*, *кто-нибудь* 「誰か」共に用いることができる。しかし、この環境で *кто бы то ни было* 「誰か/誰も」を用いることはできない。なお、*кто-то*

<sup>12</sup> なお、各不定代名詞は現れ得る環境だけではなく、スコープの取り方においても違いがある。詳細は Yanovich (2006)や Geist (2008)等を参照のこと。

<sup>13</sup> ロシア語の不定代名詞の訳語は、基本的に Haspelmath (1997: 75)にある日本語の不定代名詞の含意マップにおいて対応するものを充てることとする。

<sup>14</sup> 本調査は、この点では Татевосов (2002)の記述より Haspelmath (1997)の記述を支持することになる。

<sup>15</sup> この不自然さについて、生起可能と捉えるか、不可能と捉えるかによって、Haspelmath (1997)と Татевосов (2002)との間で記述が揺れているものと思われる。



を用いれば, 話者が事態の発生を知っていることが含意され「誰かが来たことはわかっている」, *кто-нибудь* を用いれば, 話者が事態の発生自体についても知らないということがそれぞれ含意され, 「誰かが来たかどうかわかっていない」という意味になる。(15)と同様, *кто-либо* 「誰か/誰も」については, この環境で用いるのは不可能ではないが, 不自然になる<sup>16</sup>.

- (17) Если { кто-то / кто-нибудь / кто-либо / ? кто бы то ни было } придёт,  
 Esli { kto-to / kto-nibud' / kto-libo / ? kto by to ni bylo } pridet,  
 if someone-NOM someone-NOM someone-NOM someone-NOM comes-PFV.3.SG  
 сообщите мне, пожалуйста.  
 soobščite mne, požalujsta.  
 inform-PFV.IMP.2.PL I-DAT please  
 「誰か来たら, 私に教えてください。」

(17)に示すように, 条件節内においては, *кто-то*, *кто-нибудь* 「誰か」, *кто-либо*, *кто бы то ни было* 「誰か/誰も」のどれも用いることが可能である。ただし, *кто бы то ни было* は若干不自然になる<sup>17</sup>.

- (18) a. Я не думаю, что { # кто-то / кто-нибудь / кто-либо /  
 Ja ne dumaju, čto { # kto-to / kto-nibud' / kto-libo /  
 I-NOM not think-IPFV.1.SG that-COMP someone-NOM someone-NOM someone-NOM  
 кто бы то ни было } сегодня придёт.  
 kto by to ni bylo } segodnja pridet.  
 someone-NOM today comes-PFV.3.SG  
 「今日は誰も来るとは思わない。」  
 b. Я думаю, что сегодня никто не придёт.  
 Ja dumaju, čto segodnja nikto ne pridet.  
 I-NOM think-IPFV.1.SG that-COMP today no\_one not comes-PFV.3.SG  
 「今日は誰も来ないと思う。」

間接否定(indirect negation)の上位節の否定(superordinate negation)の環境では, (18)で示すように, *кто-нибудь* 「誰か」, *кто-либо*, *кто бы то ни было* 「誰か/誰も」を用いることが可能である<sup>18</sup>。しかし, この環境では, *кто-то* 「誰か」を用いることはできない。(18b)においては, 補文内に否定辞が生起し, 直接否定環境になっている, この場合は, 不定代名詞は現れず, 否定代名詞 *никто* 「誰も(～ない)」が用いられることになる。

<sup>16</sup> 脚注 15 と同様, この不自然さについて, 生起可能と捉えるか, 不可能と捉えるかによって, Татевосов (2002)と Haspelmath (1997)の間で記述が揺れているものと思われる。

<sup>17</sup> これについても, 脚注 15, 16 と同様の理由で, Haspelmath (1997)と Татевосов (2002)の間で記述が揺れていると考えられる。

<sup>18</sup> Haspelmath (1997), Татевосов (2002)ともに, 含意マップには間接環境において *нибудь* 系列の不定代名詞は用いられないとしているが, 本調査では(少なくとも 18a の例文においては), *нибудь* 系列の不定代名詞が現れる結果となった。なお, 補文の環境が *кто-нибудь*, *кто-либо*, *кто бы то ни было* が認可されない環境であれば, 当然これらの不定代名詞は用いられない。

- (19) Сейчас там никого нет.  
 Sejčas tam nikogo net.  
 now there no\_one-GEN not\_be  
 「そこには今誰もいないよ。」

(19)では、(18b)で見たのと同様に、直接否定環境においては、否定代名詞 *никто* 「誰も(～ない)」が現れる<sup>19</sup>。

- (20) Это { любой / кто угодно } может.  
 Èto { ljuvoj / kto ugodno } mozet.  
 this-ACC anyone-NOM.SG anyone-NOM can-IPFV.3.SG  
 「(それは) 誰でもできる。」

自由選択(free choice)の意味では、(20)で示すように *любой, кто угодно* 「誰でも」どちらも用いることが可能である。

- (21) Это же { любой / кто угодно } знает?!  
 Èto že { ljuvoj / kto ugodno } znaet?!  
 this-ACC PTCL anyone-NOM.SG anyone-NOM knows-IPFV.3.SG  
 「そんなこと (は), みんな知っているんじゃないか!？」

(20)と同様(21)でも、自由選択を示す「みんな」について、*любой, кто угодно* 「誰でも」が現れる。

- (22) Да кто же такое купит?! Да никто такое не купит!  
 Da kto že takoe kupit?! Da nikto takoe ne kupit!  
 PTCL who-NOM PTCL ever buys-PFV.3.SG PTCL no\_one-NOM ever not buys-PFV.3.SG  
 「そんなもの, 誰が買うんだよ!? 誰も買うわけじゃないか!？」

(22)のような反語の文については、不定代名詞は用いられず、通常の疑問詞 *кто* 「誰」が用いられる。助詞 *да* と *же* により文が強調されており、また *такое* 「一体」は *кто* を強調している。なお、反語として内容的に前半に含意されている後半の文については否定代名詞が用いられている。ここでも助詞 *да* が文を強調し、*такое* が *никто* 「誰も(～ない)」を強調している。

## 2.4. なわ張り理論について

- (23) a. У тебя ведь очень хороший английский.  
 U tebja ved' očen' xorošij anglijskij.  
 at you-GEN.SG PTCL very good English

<sup>19</sup> なお、冗語的な(pleonastic)否定や虚辞的な(expletive)否定の文においては、*то* 系列の不定代名詞や *нибудь* 系列の不定代名詞が否定辞と同節内で用いられることもあり得ることも指摘されている。詳細は Brown (1999)を参照のこと。さらに、直接否定環境において、*либо* 系列の不定代名詞が主語になる場合は認可されないが、補語になる場合は認可されることも指摘されている。詳細は Татевосов (2002)を参照のこと。

b. Ты           ведь   очень   хорошо   говоришь           по-английски.  
Ty           ved'   očen'   xorošo   govoriš'           po-anglijski.  
you-NOM.SG PTCL very   well   speak-IPFV.2.SG. in\_English

「君は英語がうまいね。」

情報が話し手のなわ張り内にあり, かつ聞き手のなわ張り内にもある場合, (23)のように直接形<sup>20</sup>で表現される. 助詞 *ведь* 「だって」を用いることで, この場合のニュアンスを若干出すことが可能である.

(24) Тебе           { наверняка / наверно } скучно.  
Tebe           { navernjaka / naverno } skučno  
you-DAT.SG certainly probably bored

「君は退屈そうだね。」

情報が話し手のなわ張り外, 聞き手のなわ張り内にある場合, (24)で示すように *навверняка* 「確かに」や *навверно* 「たぶん」といった副詞により間接形となる.

(25) { Завтра   вроде           / Кажется   завтра } тоже будет   холодно.  
      { Zavtra   vrode           / Kažetsja   zavtra } tože budet   xolodno.  
      tomorrow it\_looks\_as\_if   apparently tomorrow too will\_be-3.SG cold

「明日も寒いらしいよ。」

情報が話し手のなわ張り外, 聞き手のなわ張り外にある場合は, (25)のように *вроде* 「どうやら〜らしい」や *кажется* 「たぶん〜らしい」を用いることで間接形とする. なお, *вроде* を用いるのは話し言葉的である.

最後に情報が話し手のなわ張り内, 聞き手のなわ張り外にある場合について, (2a)で見た文を再掲する.

(2a: 再掲) У меня болит           голова,   поэтому сегодня я   отдохну.  
U menja bolit           golova,   poétomu segodnja ja   otдохnu.  
at I-GEN hurts-IPFV.3.SG head-NOM therefore today I-NOM have\_a\_rest-PFV.1.SG

「私は頭が痛い. だから今日は休む。」

この場合は, 単純な直接形を用いることになる.

以上をまとめると以下の表 2 のようになる.

表 2 ロシア語における情報のなわ張り理論

		話し手のなわ張り	
		内	外
聞き手の なわ張り	外	A : 直接形	C : 間接形
	内	B : 直接形	D : 間接形

<sup>20</sup> 神尾 (1990)によれば, 情報のなわ張り理論における直接形とは断定・言い切りの形であり, 間接形とは「らしい」, 「そうだ」等の形である. 本稿では, 「らしい」や「そうだ」等の訳語が充てられる要素が顕在化するものについては間接形とし, そうでないものは直接形としている.

本調査からは、ロシア語は英語とほぼ同様の類型を示すといえる。ただし、領域 B において、この領域に情報があることを示唆する助詞を用いることが可能である。

### 3. おわりに

以上、本稿では、アンケートに沿った形でロシア語の例文に簡単な解説を加えつつ、ロシア語における情報表示の諸要素についてまとめることを試みた。

本稿での結果を以下に簡単に述べる。2.1 で見た主題卓越型類型論の軸項については、動詞の必須項ではない主題は統語的軸項の機能を果たさないこと、そして二重主語構文は用いられないことを示した。このことより、ロシア語は典型的な主題卓越型言語ではないといえる。2.2 で見たとりたて表現については、基本的に助詞や副詞を添加することでとりたてを表すことを示した。場合によっては語順によってそれを表現することもあった。2.3 で述べた不定表現については、概して Haspelmath (1997), Татевосов (2002)の指摘している通りの結果となった。これらの先行研究にはない反語の環境では不定代名詞は用いられず単純な疑問詞で表現されることを確認した。2.4 で見たなわ張り理論については、基本的に英語と同じ類型を示すことを示した。

もちろん、上記について結論を出すにはより詳細な調査が必要となるが、特集のアンケートに対するロシア語のデータ提供という本稿の目的は果たされたものと思われる。

### 参考文献

- Brown, Sue. 1999. *The Syntax of Negation in Russian: A Minimalist Approach*, Stanford: CSLI Publications.
- Chvany, Catherine V. 1975. *On the syntax of BE-sentences in Russian*. Cambridge: Slavica.
- Geist, Ljudmila. 2008. Specificity as referential anchoring: Evidence from Russian. In *Proceedings of Sinn und Bedeutung 12*, ed. by Atle Grønn, 151-164. Oslo: University of Oslo.
- Haspelmath, Martin 1997. *Indefinite Pronouns*. Oxford: Oxford University Press.
- Pereltsvaig, Asya. 2007. *Copular sentences in Russian: A theory of intra-clausal relations*. New York: Springer.
- Yanovich, Igor. 2006. Choice-function series of indefinites and Hamblin semantics. In *Proceedings of Semantics and Linguistic Theory 15*, ed. by Effi Georgala and Jonathan Howell, 309-326. Ithaca: Cornell Linguistics Publications.
- АН СССР. 1960. *Грамматика русского языка*, т.I, Москва: Издательство Академии наук СССР.
- Татевосов, Сергей Г. 2002. *Семантика составляющих именной группы: кванторные слова*, Москва: Институт мировой литературы имени А.М. Горького.
- 神尾昭雄. 1990. 『情報のなわ張り理論』東京：大修館書店.
- 匹田剛. 2004. 「ロシア語に見られる主題卓越型特徴について」『小樽商科大学人文研究』107: 83-106.

執筆者連絡先: miyauchi.takuya.k0@tufs.ac.jp,  
gotou.yuusuke.j0@tufs.ac.jp,  
maria.telegina@orinst.ox.ac.uk